

湿地・里山ネットワークの取組について

あいち生物多様性戦略（抜粋）

重点プロジェクトA：湿地・里山ネットワーク

【目標】湿地の保全活動

保全のための植生管理が行われている湿地：新たに10箇所

県内には600か所以上の湧水湿地が確認されており、東海丘陵要素植物をはじめ希少野生生物の宝庫となっていますが、その多くは植生遷移や開発により消失の危機に瀕しています。また、コナラやアベマキを主体とした里山林は照葉樹林へと植生が遷移しつつあり、里山としての生物多様性が失われつつあります。

本プロジェクトでは、湧水湿地や里山の状況を把握し、各湿地・里山の状況に応じた保全活動を誘導し、本県の貴重な湿地・里山生態系の保全を図ります。

<湿地・里山データベースの作成>

- ・現在は、湿地・里山の保全活動促進の前提となる情報整備がほとんどされていません。そこで、県民や市町村、専門家との協働により、湧水湿地の分布や保全状況を調査し、湿地とその後背地の里山のデータベースを作成します。
- ・生態系ネットワーク形成に向けて、特に重要な地点となる湧水湿地や水源となる里山について、自然環境の状況や課題を調査します。

<保全活動コーディネート>

- ・湿地や里山の保全を希望する市民団体や企業のCSR活動と活動場所、関係権利者、専門家などとの調整を行い、生態系ネットワーク協議会と連携して、適切な保全活動を誘導します。

<湿地・里山保全計画>

- ・保全対象とする湿地・里山では、活動団体と協働で植生目標、管理作業、モニタリングなどについての計画を定めます。
- ・また、協定や地域指定などにより、湿地の土地の恒久的な保全を図ります。

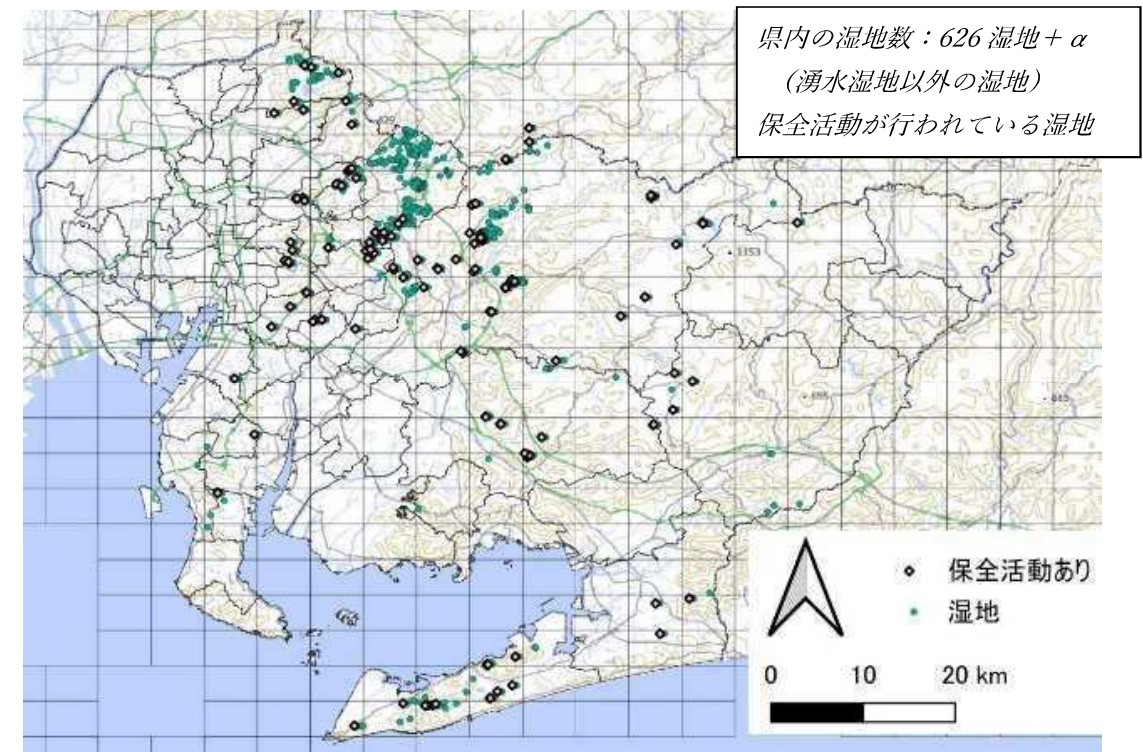
2021年度の取組状況

1 湿地・里山データベースの作成

県内の湿地について、湧水湿地研究会（※）から約600カ所の湿地の位置情報等をいただいた（2020年11月）。これをベースにして、各湿地での保全活動の現況把握や、保全対象とすべき湿地の抽出を進めている。

※ 東海地方を中心に発達する湧水湿地を調査し、目録をつくることを目的に発足した団体

湿地保全状況の情報収集（作成中）



2 知多半島における保全対象とすべき湿地の調査等

600を超える湿地の中から、30程度を抽出し、そのうち、2地域程度にモデル事業を行う必要があるこのため、湿地の減少が著しい知多半島で文献調査を行った。

知多半島では、宅地や工業団地の造成、農地整備により、かつて存在した湿地の消失が顕著である。知多半島における、現状で確認される湿地は、表1及び表2のとおりであり、保全活動がなされていない湿地が3ヶ所（表2）確認されている。

表1 現存する湿地（保全活動等あり）

湿地の名称（行政区） 規模	保全活動	主な植生等	備考
板山高根湿地（阿久比町） 11,560m ²	板山高根湿地環境ボランティア	シラタマホシクサ、ハツチョウトンボ 等	
壺町田湿地（武豊町） 1,100m ²	壺町田湿地を守る会	シロナガバノイシモチソウ、ミミカキグサ 等	天然記念物（県） 自然環境保全地域
小鈴谷地区・愛知用水沿い（常滑市） 600m ² （200m×3mと横長）	管理者（独立行政法人水資源機構 下流管理事務所）が定期的な草刈りを実施	モウセンゴケ（三種）等	施設管理のための草刈りを実施（人による草刈り機）

表2 現存する湿地（保全活動なし）

湿地の名称（行政区） 規模	所有者	主な植生等	現 状
久米湿地（常滑市） 500 m ²	個人	ヌマガヤ、ミズギボウシ等	かつては、シラタマホシクサが卓越していたが、消失。イヌツゲ、ササなどにより藪となった状態。
行人町湿地（半田市） 500 m ²	個人	ヨシ、シラコスゲ、キショウブ 等	かつては、シラタマホシクサが自生していたが、わずかに残存。管理されず、草原化
大谷湿地（常滑市） 500 m ²	企業	イワショウブ、ミズギク、シラタマホシクサ 等	ウラジロ、イヌツゲの浸食により、湿地面積が縮小。



出展：東海地方の湧水湿地（P278）

図1 知多半島地域における湧水湿地の分布